

## 第22回日本臨床工学会が

平成24年5月12日(土)～平成24年5月13日(日)に

富山県の

富山国際会議場 / 富山市民プラザ

ANA クラウンプラザホテル富山

にて開催されます。

当院からは、臨床工学科 上西大輔 技士が

学術発表いたしますので、ご紹介します。

メインテーマ

# 確かなる臨床工学技士像を 考える

会期：平成 24年 5月 12日(土) - 13日(日)

会場：富山国際会議場  
富山市民プラザ  
ANA クラウンプラザホテル富山

主催： 社団法人 日本臨床工学技士会  
Japan Association for Clinical Engineering Technologists  
 一般社団法人 富山県臨床工学技士会  
TOYAMA Association for Clinical Engineering Technologists



平成 24年度  
(社)日本臨床工学技士会総会

# 日本臨床工学会

第22回

末梢動脈疾患を合併したコレステロール結晶塞栓症に LDL-Apheresis を試みた症例

医療法人康仁会 西の京病院 臨床工学科<sup>1)</sup>、心血管内科<sup>2)</sup>、透析センター<sup>3)</sup>、内科<sup>4)</sup>  
上西大輔<sup>1)</sup>、麻野秀人<sup>1)</sup>、村岡進広<sup>1)</sup>、明石清忠<sup>1)</sup>、前嶋昭彦<sup>1)</sup>、野口 幸<sup>1)</sup>  
河原田修身<sup>2)</sup>、青木昭美<sup>3)</sup>、田宮正章<sup>3)</sup>、吉岡伸夫<sup>3)</sup>、高比康臣<sup>4)</sup>

【はじめに】コレステロール結晶塞栓症は治療に難渋することが多く予後不良である。これに対する治療に LDL-Apheresis(LDL-A)が有効であるという報告がある。今回、末梢動脈疾患に合併したコレステロール結晶塞栓症に対し LDL-A にて救肢を試みた症例を経験したので報告する。

【症例】患者は 80 歳代女性。2009 年 2 月より糖尿病性腎症にて維持透析中。2010 年 12 月に左第 5 趾に潰瘍を認めたが自然治癒。2011 年 8 月夜間に右下肢の安静時疼痛が出現し Fontaine 3 度のため SPP、ABI を行った。SPP は右足背/足底 47/50mmHg、左足背/足底 48/53mmHg。ABI は、右/左 0.53/0.54 であったため下肢動脈造影を行った。造影では、両外腸骨動脈に高度の狭窄を認め、両浅大腿動脈は完全閉塞であった。初期治療として両外腸骨動脈にステント留置を行い、良好な血流を得て治療を終了した。術後 SPP は緩徐に上昇し、下肢痛は消失した。しかし 2011 年 9 月、両足の痛みに伴い blue toe が出現した。両側腓骨筋以下に残存する閉塞性病変を有するが、SPP 右足背/足底 69/55mmHg、左足背/足底 59/42mmHg と保たれていることから重症下肢虚血が原因ではなく、コレステロール結晶塞栓症と診断し LDL-A にて血流の改善を試みた。LDL-A は、カネカメディックス社製 LA-15 を使用し週 1 回行った。施行時間は 1 回 2 時間で血漿処理量 3500ml とし、計 10 回行った。足の痛みは自制内でコントロール可能となり、病変の進行は左右第 1.5 趾の炭化のみに留めることが出来た。

【結語】今回の症例は、末梢動脈疾患を合併し、コレステロール結晶塞栓症を発症した患者に LDL-A を試み良好な臨床経過を得ることが出来た。